

いざ所長室へ！（所長インタビュー）



私：今回、所長にお話をお聞きしたいのは、刑務官になってみようかと思う人が、「所長」ってどんな方だろうと考えたときに、聞いてみたいと思うようなことを聞かせていただきたいと思います。

所長：なんでも協力するから、なんでも言うてエエよ。

私：ではさっそく…所長になってよかったことはありますか？

所長：自分の意思・考え方を施設運営に反映できること。それと、いろいろな経験ができること。例えば、大学の法学部や行動科学系学部での講義を依頼されることがあり、矯正行政のこと、刑務所のことを講義するようなこともある。そのおかげで、忙しいというか、拘束される時間は多いけどね。

私：所長になるまで、なった後に大変なことはありましたか？

所長：なるまでもなった後もこれは同じだけれども、大変だなとか、この仕事をやりたくないとか思ったことはない。一歩職場から出るとぱっと忘れるというか、切り替えができる体質。それから、何か重たい仕事をしていると、先輩や上司が気にかけて、ねぎらってくれたりするので、やっていける。

私：今までで、一番面白かった仕事は何ですか？

所長：どの仕事も面白かったけれども、ひとつ挙げるとしたら「矯正研修所支所の教官」。特に、初等科・基礎科の研修がよかった。矯正職員としてまだ何も分からない彼らに、どのような職員になってほしいかを考えて指導したり、これから社会人として生活の糧を得ていく彼らに、給料をもらう以上、その分は働くということを知ってほしいと思って関わっていた。

私：今の所長から見て、採用当時の自分自身はどうですか？

所長：「今の若い人は……」とよくいうけれど、自分たちが若いときもそう思われていたはずだと思うようになった。自分は、向いてない、すぐ辞めそうと思われていただろうと思う。誰でも最初は役に立たないもの。でも、先輩や上司の中で、いい人がいれば変わっていける。

それから、時代が変わる中で矯正も変わっていくので、入ったときに合わないと思った人も、もう少し続けてみれば、その人が変わるかもしれないし、時代が変わって矯正行政もそれに沿っていくので、役に立つようになるかもしれない。そういうこともあるから、入って2、3年で「合わない」って辞めなくてもいいんじゃないかなと思うところもあるね。

私 : 良い上司に必要なものってどんなことだと思いますか？

所長 : 特に若い人には説明してあげないといけない。上司や先輩には説明責任があるということ。昔は「ダメなものはダメ！」でよかったが、今はそれだと理解できなくて、ミスを繰り返してしまう。どうして〇〇をしなければならないのか、理由をきちんと説明するしかない。職員が理解できるように説明できなければ、それは説明が悪い。同じ土台に立っている職員にわかってもらえなければ、国民の皆様にも理解してもらえない説明はできない。

私 : 所長がこれまで出会った中で面白いと思う職員はどんな方ですか？

所長 : 仕事ができる／できないという評価と、好き／嫌いは別。つまり、人なので合う／合わないがある。面白い、興味がわくのは何かもっている、ひとつのことに長けている職員。他の人とは違うところがある人。

自分も変わっているんやけどな。だいぶ変わっていると思われていたと思う。だって、もともと聴覚障害者の施設でケースワーカーをしていて、刑務官になろうとなんて思ってもいなかったから。

私 : ケースワーカー？それが、どういう経緯で刑務官になったのですか？

所長 : 大学で社会福祉をやっている、学生をしながら聴覚障害者の施設でケースワーカーをしていた。ある日、新聞で「刑務官採用試験」というのを見て、友達が、「これに行ったら刑務所の中が見られるぞ」と言ったので、じゃあ見てこようということで受験した。受かっても行く気もなかったが、「あなたの経験は何も役に立ちません。刑務所はこういうところだから」と言われて、何度も何度も「本当に来ますか」と確認が来た。正直に話して不合格になるのもかっこ悪かったので、「行きます」と言い続けた。それで「3月30日に布団を持って刑務所に来て」と言われた。

私 : 福祉系のワーカーとして関わる人たちと、刑務官として関わる受刑者の方々はけっこう違うとは感じませんでしたか？

所長 : 入れ墨の入った相手からの請求などについて話し合うための手話通訳としても働いていたので、刑務所で働くようになって、そういう人を見ても、

特に何とも思わなかった。それと、ケースワーカーとして問題を抱えている障害者の方と関わっていて、受刑者は、「問題を抱えている人」という意味では同じだなとも思った。

自分の採用当時は「役に立ちません」と言われていたことが、今では、福祉につなぐことや地域社会の中で受け入れられることが必要ということになっている。社会が変わっていった、社会の流れに沿って矯正行政も動いていくということ。

私 : 刑務官になろうかと思っている人に伝えたいのは、どんなことですか？

所長 : やってみようという気持ちがあるなら、なれば工工と思う。給料をもらって働いているんだという自覚をもてる人であれば。給料をもらうので、その分は働いてほしいと思う。そうであれば、PCが得意な人でも、語学が得意な人でも、いろいろな人が刑務官としていても工工と思う。

私 : 得意なことがない人は？

所長 : 真面目ということも特技になるかもしれないし、歌がうまいでも工工と思う。社会にはいろいろな人がいて成り立っていて、時代は変わっていくので、どうということが役に立つようになるかわからない。

それから今は、どんな人でも働けるようにこちらが環境を整えないといけない。「今の若い人は〇〇ができない」じゃなくて、「〇〇ができるように環境を整える」とか、「〇〇ができなくても仕事ができるようにする」とか、考えていかないといけないと思う。

私 : ありがとうございます。所長の経歴とか、熱いお考えを聞くことができ、本当に勉強になりました。